

平成24年度宇都宮市交通安全審議会会議録

- 1 日 時 平成25年3月26日（火）午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 宇都宮市役所 14A会議室
- 3 出席者 舟本委員， 齊藤委員， 金沢委員， 山本委員， 熊本委員， 古池委員，
森本委員， 森崎委員， 櫛淵委員， 田村委員， 野澤委員， 花田委員，
今井委員， 五十嵐委員， 黒田委員（代理渡辺氏）， 横嶋委員（代理江連氏），
竹村委員（代理高木氏）
（欠席委員 鈴木委員， 小島委員， 石川委員）
- オブザーバー 若林宇都宮中央警察署交通総務課長
弓田宇都宮東署交通管理官 阿部宇都宮東署交通総務課長
広田宇都宮南署交通課係長
- 事務局 柴田市民まちづくり部次長， 大音生活安心課長， 後藤生活安心課長補佐，
高田生活安心課交通安全グループ係長， 鈴木生活安心課交通安全グループ
総括主査， 菅原生活安心課交通安全グループ主任， 高久生活安心課交
通安全グループ主任主事
- 4 議 事 （1）宇都宮市の交通事故発生状況について
（2）第9次宇都宮市交通安全計画の進捗と今後の取組について

1 開 会（午後2時00分）

2 議 事

- （1）宇都宮市の交通事故発生状況について 【別添資料1参照】
- （2）第9次宇都宮市交通安全計画の進捗と今後の取組について 【別添資料2参照】

3 協議事項

- （1）宇都宮市の交通事故発生状況について

・事務局から資料1に基づき「宇都宮市の交通事故発生状況について」を説明

会 長 宇都宮市の交通事故発生状況について，ご質問，意見があれば，いただき
たい。

A 委員 自転車の事故について，高齢者の出会い頭の事故は現状として，信号機のある
ところで起きている事故か，信号機のないところでの事故か，わかるか？

事務局 市では事故の統計は持っているが，24年の詳細な事故データは県警で持っ
ており，そこまで詳細な内容はわからない。

A 委員 前年のデータはあるのか？

事務局 23年もそこまで詳細なものはない。

会 長 警察の方は分かるか？

東警察署 昨年を見る限りでは，信号機のないところで大きな事故が発生している。

B 委員 平成24年の事故は全体で増えているが，主な原因は何か？

事務局 全体で41件増えているが，歩行者対自動車の事故が20件増えている。年

間の前半はかなり低迷していたが、夏場になって増えた。追突による事故が多くを占めており、暑さなどにより注意力が散漫となり追突事故が増えるなど、気象的な問題に影響があったのではないかと推測している。

C 委員 県別の交通事故の発生件数はあまりよくなかったと思うが、平成24年はまだ出ていないのか？

事務局 本市は、41中核市の中でワースト16位。

会長 県はもっと悪かったのか？

D 委員 県はワースト15位。

会長 10年間はワースト10位以内だった。もっと以前は、常にワースト3位に入っていたので、最近はよくなっている。

(2) 第9次宇都宮市交通安全計画の進捗と今後の取組について

- ・事務局から資料2に基づき「第9次宇都宮市交通安全計画の進捗と今後の取組について」を説明

会長 計画の進捗と今後の取り組みについて、ご質問、意見があれば、いただきたい。

E 委員 宇都宮市は自転車のまちとして、自転車走行空間として自転車専用レーンの整備や今泉町交差点付近の自転車走行位置を明示する社会実験が高く評価されている。しかし、実際、交通安全については、ハード整備とソフト対策の両部分が連携して初めて成り立つものであり、自転車専用レーンが青くカラーペイントされ、いい対策だと思うが、自転車専用レーンでの相互通行や左側通行の矢印が路面表示されているのにもかかわらず、逆走してしまうのが現状である。ハード整備されているのだから、実際に走行する人の教育をしっかりと進めてほしい。これからは、ヘルメットの着用率をあげ、自転車の左側通行を徹底し、交差点内での自転車の巻き込み確認などの安全確認の徹底といった具体的な目標を持って取り組んでほしい。事故データを見る限りでは、昨年より増えており、ハード対策、ソフト対策の両部分で頑張ってもらいたい。

事務局 幅広い年代に対する教育などに取り組んでいるが、行政の対応としては、どうしても満遍なく取り組む傾向にある。重点的にひとつでも改善できるよう、指導していきたい。

E 委員 車の免許を持っている人は自転車に乗っていても車の気持ちがわかるが、学生や免許をもっていない人が自転車に乗ると、車の動きは絶対予測できない。自転車の安全教室は、あくまで自転車の安全な乗り方などの内容であるが、逆にドライバーの気持ちを教えることも必要であり、相互理解できるような教育をもっとやってほしい。

会長 大変重要なことである。資料より、8割の方が交通マナーは悪いと感じている。その対策として小学校、幼稚園での小さい頃からの指導などが必要であり、ブリッツェンの活躍が非常に貴重である。格好いいロードレーサーがヘルメットをかぶりユニホームを着ると、子どもたちの見本になる。

- F 委員 児童はルールを守っているが、その前で大人がルールを破り悪い見本をみせている。児童や生徒の教育は今まで通りやっていただき、悪質な違反者への罰則もきちんとやってほしい。
- 会 長 大人のルール違反が一番の問題である。警察もこれまで自転車の取り組みを厳しくやってこなかったが、一昨年以來、厳しく指導するようになってきている。自転車を正しく指導するためには、取り締り強化もやむを得ない。市内のヘルメット着用の状況はどうか？
- 事務局 平成25年度から、宇都宮市内の中学生1年生を対象に自転車通学者にヘルメット着用を義務付けている。
- 会 長 ヘルメットは誰が購入するのか？
- 事務局 補助制度などはなく、保護者の方が各自購入する予定となっている。
- 会 長 問題提示として、高齢者の自転車の死亡事故が多く、県警で4年前から予算化し、高齢者にヘルメットを無料配布している。その後、県のトラック協会が毎年寄付しており、宇都宮でも多くの人に配布されているが、着用している人を見た事がない。
- G 委員 ヘルメットの無償配布については、平成23年度から老人クラブを通じて配布されているが、その数も限られているので、モデル地区を選定して配布している。今後、継続して配布される場合には、特に配布する際に必ず着用することを条件に、また、高齢者の自転車事故を防止するため、着用の効率的な使用を周知していきたい。そして、交通安全教室については、市の出前講座と警察で指導するものとあるので、いずれかを受講して、増加傾向にある高齢者の交通事故を防止していきたい。
- 会 長 ヘルメットを配布している県はあまり例がなく、無料で配布するから着用しないのではないか。
- F 委員 ヘルメットを着用していれば、お店の商品が割引されるなど、着用している人にメリットがあれば着用するのではないのか。
- 会 長 事務局でメリットになることを検討してほしい。
- H 委員 刺激、奨励になるインセンティブをどうつけるかが、ヘルメットの着用率の鍵を握るのではないか？例えば、講習会での成績が優秀な方に無料でヘルメットを配布するなど。また、小中学校の自転車通学者については、マナーのよい学生にはカッコいいヘルメットを配り、モチベーションをあげてもらおうなどの取組は、着用率向上には効果的ではないか？
- 会 長 いろいろなインセンティブを考えてほしい。
- I 委員 高齢者の歩行中の死亡事故について、裁判所前の道路で事故が多い。赤信号なのに車が走行してくることもしばしば見かけるし、左右を良く見て横断歩道を渡るようにしてほしい。
- G 委員 横断歩道を青信号のうちに渡りきれないで立ち止まっている高齢者を見かけたことがある。本当に危険であることを痛感した。自ら身を守るため細心の注意をして横断するのは当然のことであるが、特に片側2車線以上もある道幅では、高齢者でも横断できる時間の設定が必要ではないか。また、道幅が狭い片側1車線の道路でも、横断歩道のある場所には押しボタン式の信号機の設置が

- 必要ではないか。
- 会 長 イギリスなどのヨーロッパでは、横断歩道の途中に待機する場所があり、2度渡しの方法で横断歩道を渡らせるようにしている。日本では、以前は、歩行者専用の信号の青色点灯の時間は長かったが、ここ最近は短くなり、そのためか、中には高齢者が青色点灯中に横断歩道を渡りきれないことがあるとは聞いている。
- H 委員 毎年、事故マップを作成しているが、事故マップでは自転車の事故が自転車専用レーンなどで起きたのか、歩道で起きたのかがわからないため、ハード整備などの安全対策が効果的であったのかがわからない。事故データベースの更新や状況に関係機関と調整する必要がある。実は、調査した中で、自転車専用レーンの整備をした箇所において、競輪場通りでの事故が発生しており、そのうち、自転車専用レーンを逆走した事故が多くみられた。自転車走行空間整備の役割と自転車運転者のモラルを連動させる必要がある。
- 会 長 道路の走行環境はよくなってきたが、車道の右側走行や歩道走行など、混乱している人がおり、ルールをきちんと教えないといけない。しかしながら、道路交通法は非常に難しいので、一般の人に教えるのは至難の技である。自転車が歩道を高速で走行している状況が見られるのは、先進国では日本だけである。まだ、日本は自転車の交通ルールが確立されていない。生活安心課と学校、教育委員会と上手く連携して教育を実施する必要がある。
- J 委員 視覚、聴覚、身体障がい者の事故も起きており、自損事故、自傷事故が多い。これまでなかった障がい者団体への交通安全教室もやってほしい。
- 会 長 他の団体や国を参考に、それぞれの障がいの状況に合わせた交通安全教室を検討してほしい。
- F 委員 幼稚園の近くの細い道路で制限速度以上のスピードを出して走行する車が多く危険であり、小学校、幼稚園や保育園付近に時速30km制限の道路を増やしてほしい。
- 会 長 外国では時速30kmの道路や生活道路の多い地域をゾーン30と呼ぶ。この件に関して、生活安心課では何か対策を実施しているのか？
- 事務局 宇都宮市内では、テクノポリスの団地付近と姿川第一小学校の西側の団地付近の2箇所制限時速30kmに設定されている。実施するにあたっては、地域の要望のほか、道路管理者と警察の協力が必要になる。
- 会 長 各地区に地域まちづくり計画、地域ビジョンがあると思うが、各地区の地域ビジョンにどのように位置づけられているのか？
- 事務局 位置付けがどのようになっているか不明なので後で確認する。
- D 委員 本当にヘルメットを着用してもらうためのメリットなどアイデアがほしい。
- 会 長 ヘルメットが寄付されている以上、なんとしても着用してもらいたい。他の自治体では、6歳以下の児童にはヘルメット着用を義務付けられているが、ヘルメットは自分で購入しなければならない。そこで、児童と親と一緒に着用すると補助金が出るなどの対応はどうだろうか？
- K 委員 高齢者限定で物品を配ることも大切だが、高齢者以上に使っていただける人に配るようにしたほうがいい。

- L 委員 点字ブロックについて、今年は雪が非常に多かったので雪かきが行われていたが、その際に、溜まった雪を点字ブロックの上に積んでいる人がいた。点字ブロックの維持管理はどのようになっているのか？
- 会 長 道路の維持管理はどこの部所がどう管理しているのか、よく確認してほしい。また、地域ではどのような取り組みがされているのか？
- M 委員 交通安全推進協議会では、各地区でストップマークの路面表示などを実施している。
- N 委員 揺れながら自転車を運転している高齢者をよく見かけるが、近くを自動車が通り過ぎると危ないので、揺れながら運転する高齢者の方は、渋滞や事故の原因になる。このようなことを無くすために、自転車に年齢制限を設ければ、揺れながら運転する高齢者がいなくなるのではないか。
- 会 長 車の運転は70歳以上になると、高齢者教習を受けなければ免許は更新できなく、75歳以上になると、高齢者講習を受ける前に講習予備検査が必要になる。地域内交通、公共交通や個人要望に答えるデマンドタクシーを利用する高齢者もいる。来年以降、ヘルメット着用の問題など、時代の変化に対応した政策の見直しが必要ではないか。
- 事務局 計画については5カ年の進行管理の中で実施しており、目標値などへの対応は、今後の運用の中で検討していきたい。
- 会 長 目標値の策定だけでなく、メリハリをつけて実際に効果が上がるよう、取組を検討してほしい。宇都宮の交通安全の向上を目指すためなら、審議会をいつでも招集してほしい。
- それでは、本日の会議は終了とする。

4 開 会（午後3時30分）